

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	膵神経内分泌腫瘍における形態的・分子学的検討
	研究目的	膵神経内分泌腫瘍は稀な腫瘍であり、その悪性度を正確に予測することは難しいとされています。 そこで本研究では、これまでに採取された膵神経内分泌腫瘍の病理組織検体を用いて、形態学的ならびに分子病理学的手法を行うことで、膵神経内分泌腫瘍の新たなバイオマーカーや新規治療法の開発を目指します。
	研究対象者	当センターで手術が施行され、膵内分泌腫瘍と診断された患者さんが対象となります(対象期間は1991年1月1日～2019年3月31日です)。
	研究期間	西暦 2020年6月3日～西暦 2025年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	大久保陽一郎
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	東海大学医学部基盤診療学系病理診断学・平林 健一(代表) 東海大学医学部附属八王子病院病理診断科・田尻 琢磨 昭和大学医学部臨床病理診断学講座・大池 信之 順天堂大学医学部人体病理病態学講座・福村 由紀 久留米大学病院病理診断科・内藤 嘉紀